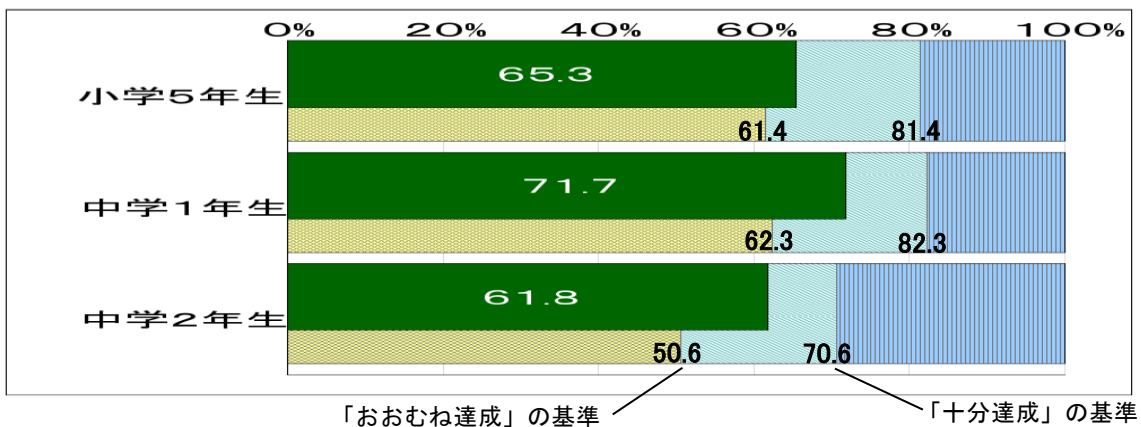


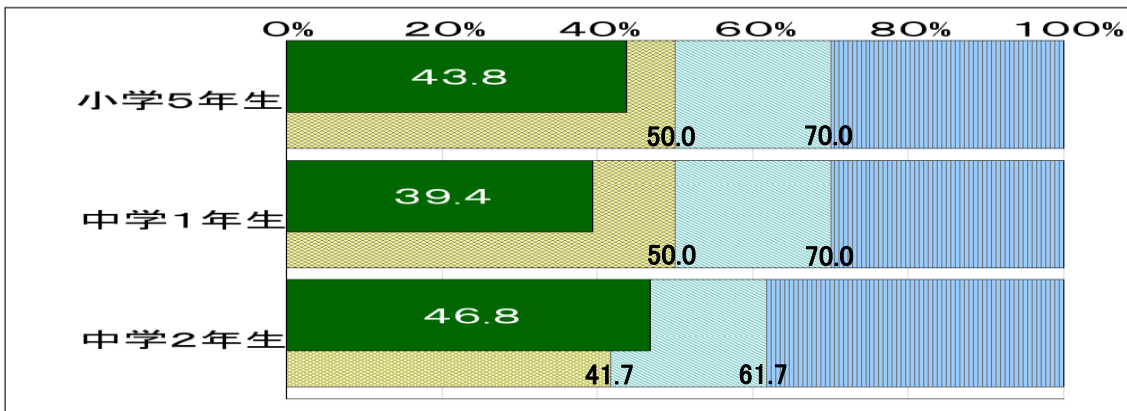
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共にどの学年においても「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、「話す・聞く能力」「書く能力」「知識・理解・技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、中学校2年生は、「話す・聞く能力」において、「十分達成」を上回っている。「読む能力」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]
- 内容・領域別に見ると、「語句に関する知識」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「漢字の読み」については、小・中学校共に全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学1年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～9]

[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率



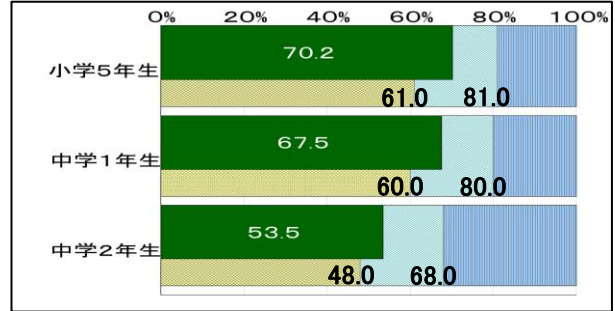
[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率



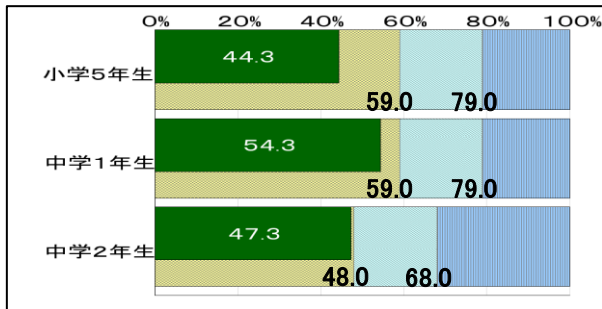
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

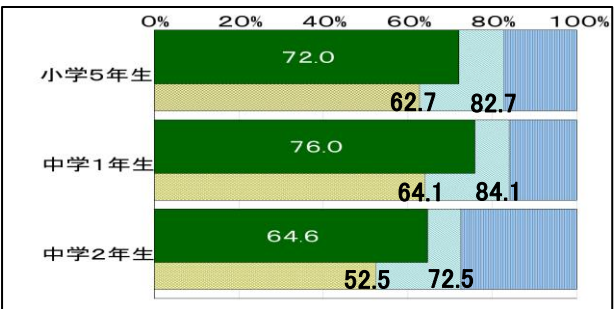
[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



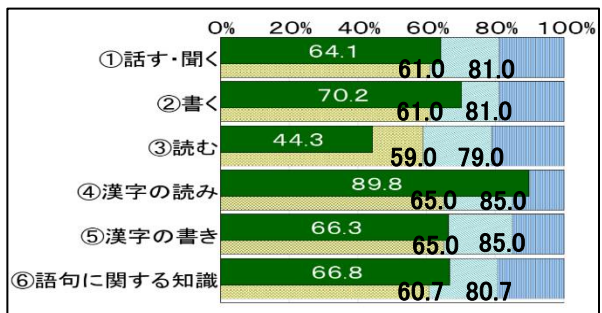
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



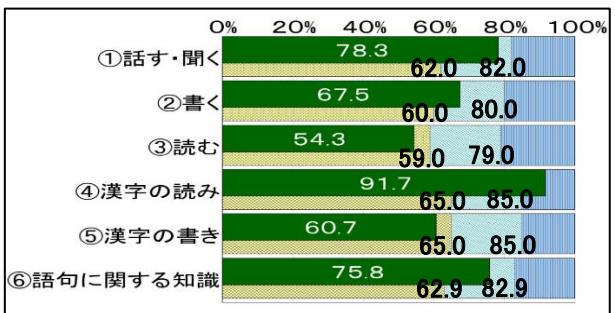
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



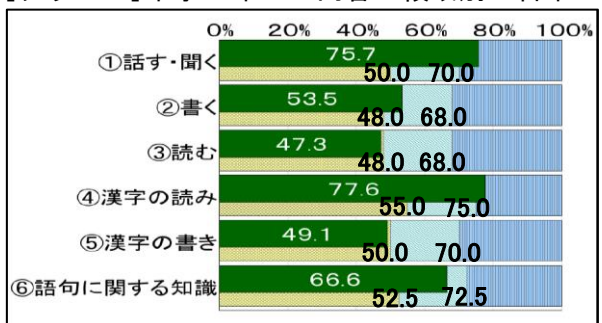
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



[グラフ8] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ9] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,543	65.3	7.4	81.4	61.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	①話す・聞く	5	64.1	1.4	81.0	61.0	
	②書く	5	70.2	3.0	81.0	61.0	
	③読む	5	44.3	12.9	79.0	59.0	▼
	④漢字の読み	3	89.8	4.6	85.0	65.0	◎
	⑤漢字の書き	3	66.3	10.6	85.0	65.0	
	⑥語句に関する知識	7	66.8	10.7	80.7	60.7	
評価の観点	①話す・聞く	5	64.1	1.4	81.0	61.0	
	②書く	5	70.2	3.0	81.0	61.0	
	③読む	5	44.3	12.9	79.0	59.0	▼
	④知識・理解・技能	13	72.0	9.3	82.7	62.7	
問題形式	選択式	14	69.4	2.6	82.5	62.5	
	短答式	11	66.1	12.0	83.2	63.2	
	記述式	3	43.8	12.7	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	43.8	12.7	70.0	50.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			①話す・聞く	②書く	③読む	④漢字の読み	⑤漢字の書き	⑥語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能					十分達成	おおむね達成	
1	一	自分の考えと比較しながら聞く	○						○				○		72.6	0.5	85	65	
1	二	理由を挙げながら話す	○						○				○		77.2	0.5	85	65	
1	三	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○						○				○		67.9	0.9	80	60	
1	四	司会の役割を考えながら話し合いを進める	○						○				○		67.4	0.8	85	65	
1	五	理由を明確にして、話す内容を構成する	○						○					○	35.4	4.3	70	50	▼
2	一	目的に応じて、内容の中心を明確にして書く		○						○			○		56.2	0.6	80	60	▼
2	二	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする		○						○			○		74.7	6.4	85	65	
2	三	分かりやすく説明するために、資料を取り上げて書く		○						○			○		75.2	1.1	85	65	
2	四	書こうとすることの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書く		○						○			○		73.3	2.0	80	60	
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く		○						○				○	71.6	4.8	75	55	
3	一	文章に書かれている事実を捉える			○						○		○		73.1	1.6	85	65	
3	二	事実と意見とを区別して読む			○						○			○	11.1	24.0	80	60	▼
4	一	登場人物の行動を捉える			○						○		○		51.8	4.4	85	65	▼
4	二	叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える			○						○		○		61.3	5.5	80	60	

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			①話す・聞く	②書く	③読む	④漢字の読み	⑤漢字の書き	⑥語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
4	三	叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える		○						○			○	○	24.5	29.1	65	45	▼		
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「希望」			○					○		○			95.7	2.9	85	65	◎		
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「試みる」			○					○		○			82.7	6.4	85	65			
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「印刷」			○					○		○			91.1	4.7	85	65	◎		
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「鉄橋」				○				○		○			43.2	16.8	85	65	▼		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」				○				○		○			70.8	8.3	85	65			
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「暗い」				○				○		○			84.9	6.7	85	65			
5	三1	文の中における主語を捉える					○			○		○			78.5	4.5	80	60			
5	三2	文の中における主語を捉える					○			○		○			47.5	4.7	80	60	▼		
5	四	漢字のへんについて理解する					○			○		○			87.3	4.5	80	60	◎		
5	五	国語辞典の使い方を理解する					○			○		○			82.1	4.7	85	65			
5	六①	ローマ字を正しく書く「yume」					○			○		○			44.2	18.8	80	60	▼		
5	六②	ローマ字を正しく読む「きつぷ」					○			○		○			62.7	17.3	80	60			
5	六③	ローマ字を正しく読む「りんご」					○			○		○			65.7	20.0	80	60			

〔表 2〕 中学 1 年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,203	71.7	3.6	82.3	62.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	①話す・聞く	5	78.3	1.0	82.0	62.0	
	②書く	5	67.5	2.1	80.0	60.0	
	③読む	5	54.3	2.5	79.0	59.0	▼
	④漢字の読み	5	91.7	2.5	85.0	65.0	◎
	⑤漢字の書き	5	60.7	12.8	85.0	65.0	▼
	⑥語句に関する知識	7	75.8	1.7	82.9	62.9	
評価の観点	①話す・聞く	5	78.3	1.0	82.0	62.0	
	②書く	5	67.5	2.1	80.0	60.0	
	③読む	5	54.3	2.5	79.0	59.0	▼
	④知識・理解・技能	17	76.0	5.2	84.1	64.1	
問題形式	選択式	18	73.5	1.0	82.8	62.8	
	短答式	11	77.4	7.1	85.0	65.0	
	記述式	3	39.4	7.1	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	39.4	7.1	70.0	50.0	▼

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			①話す・聞く	②書く	③読む	④漢字の読み	⑤漢字の書き	⑥語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能					十分達成	おおむね達成	
1	一	話し手の意図を捉えながら聞く	○						○				○		85.7	0.1	85	65	◎
1	二	司会の役割を考えながら話し合う	○						○				○		87.7	0.1	85	65	◎
1	三	目的や意図に応じて発言の構成を工夫しながら話す	○						○				○		90.7	0.1	85	65	◎
1	四	発言の意図をはっきりさせながら話し合う	○						○				○		81.5	0.1	85	65	
1	五	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	○						○					○	45.8	4.6	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する		○						○			○		87.6	0.1	85	65	◎
2	二	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする		○						○				○	89.3	0.9	85	65	◎
2	三	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く		○						○			○		58.0	0.2	80	60	▼
2	四	目的や意図に応じて、自分の考えを書く		○						○				○	35.8	7.2	70	50	▼
2	五	目的や意図に応じて、リーフレットに題名を付ける		○						○			○		66.8	2.1	80	60	
3	一	登場人物の相互関係や心情についての描写を捉える			○						○		○		54.4	0.4	85	65	▼
3	二	叙述を基に描写を捉える			○						○		○		56.5	0.5	80	60	▼
4	一	文章の内容を的確に押さえる			○						○		○		58.6	0.9	80	60	▼
4	二	構成の仕方を捉える			○						○		○		65.3	1.0	80	60	

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			① 話す・聞く	② 書く	③ 読む	④ 漢字の読み	⑤ 漢字の書き	⑥ 語句に関する知識	① 話す・聞く	② 書く	③ 読む	④ 知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式			十分達成	おおむね達成	
4	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む		○							○			○	○	36.6	9.4	70	50	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「貯蔵」			○						○		○			90.1	3.0	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「映る」			○						○		○			98.7	0.8	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「裁く」			○						○		○			94.0	2.5	85	65	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「沿って」			○						○		○			96.4	1.4	85	65	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「厳守」			○						○		○			79.3	4.9	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「往復」				○					○		○			65.1	7.6	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「評判」				○					○		○			60.9	11.0	85	65	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「祝う」				○					○		○			57.6	10.8	85	65	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「陰しい」				○					○		○			63.5	12.4	85	65	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「慣れる」				○					○		○			56.5	22.4	85	65	▼
5	三1	同音・同訓の漢字を正しく使う 「期間」					○				○		○			92.3	1.3	85	65	◎
5	三2	同音・同訓の漢字を正しく使う 「機関」					○				○		○			85.7	1.4	80	60	◎
5	四	熟語の構成について理解する					○				○		○			89.8	1.6	85	65	◎
5	五	漢字の由来について理解する					○				○		○			43.1	2.0	85	65	▼
5	六	相手や場面に応じ、適切に尊敬語を使う					○				○		○			79.5	1.6	80	60	
5	七1	文の中における主語を捉える					○				○		○			77.7	2.1	85	65	
5	七2	文の中における主語を捉える					○				○		○			62.5	2.0	80	60	

〔表 3〕 中学 2 年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	6,833	61.8	5.8	70.6	50.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の 内容・領域等	①話す・聞く	5	75.7	3.1	70.0	50.0	◎
	②書く	5	53.5	6.1	68.0	48.0	
	③読む	5	47.3	3.7	68.0	48.0	▼
	④漢字の読み	5	77.6	2.6	75.0	55.0	◎
	⑤漢字の書き	5	49.1	16.8	70.0	50.0	▼
	⑥語句に関する知識	6	66.6	2.9	72.5	52.5	
評価の観点	①話す・聞く	5	75.7	3.1	70.0	50.0	◎
	②書く	5	53.5	6.1	68.0	48.0	
	③読む	5	47.3	3.7	68.0	48.0	▼
	④知識・理解・技能	16	64.6	7.2	72.5	52.5	
問題形式	選択式	11	62.9	1.0	71.4	51.4	
	短答式	16	64.4	7.6	71.9	51.9	
	記述式	4	48.2	11.7	63.8	43.8	
活用	「活用」に関する問題	3	46.8	12.4	61.7	41.7	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点				問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			①話す・聞く	②書く	③読む	④漢字の読み	⑤漢字の書き	⑥語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能					十分達成	おおむね達成	
1	一	話合いの話題や方向性を捉えて的確に話す	○						○				○		83.8	0.1	70	50	◎
1	二	話の構成に注意して話す	○						○				○		80.4	0.1	75	55	◎
1	三	相手の発言を整理しながら聞く	○						○				○		87.4	0.2	75	55	◎
1	四	その場にふさわしい言葉遣いで話す	○						○				○		83.9	3.8	70	50	◎
1	五	相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる	○						○					○	43.0	11.2	60	40	
2	一	目的に応じて材料を取捨選択する		○						○			○		66.4	0.5	70	50	
2	二	集めた材料を整理する		○						○				○	52.7	9.5	70	50	
2	三	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする		○						○			○		43.6	6.1	70	50	▼
2	四	意見を支える根拠の明確さについて助言する		○						○			○		46.5	1.6	65	45	
2	五	必要な材料を集めるための見通しをもつ		○						○				○	58.5	12.7	65	45	
3	一	描写を基に、心情を捉える			○						○		○		47.0	1.3	70	50	▼
3	二	会話描写に注意して読みながら内容を理解し、自分の考えをもつ			○						○			○	38.7	13.3	60	40	▼
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○						○		○		62.3	1.0	75	55	
4	二	文章の表現の特徴について自分の考えをもつ			○						○		○		30.0	1.3	70	50	▼

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率		到達状況
			① 話す・聞く	② 書く	③ 読む	④ 漢字の読み	⑤ 漢字の書き	⑥ 語句に関する知識	① 話す・聞く	② 書く	③ 読む	④ 知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式			十分達成	おおむね達成	
4	三	文章の要旨を捉える		○						○			○			58.3	1.5	65	45	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「奮(って)」			○						○		○			45.5	5.0	75	55	▼
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「快晴」			○						○		○			89.8	2.9	75	55	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「頂」			○						○		○			63.7	2.9	75	55	
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語) 「装備」			○						○		○			96.4	1.0	75	55	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字) 「勢(い)」			○						○		○			92.3	1.3	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「拝(む)」				○					○		○			31.7	31.4	70	50	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字) 「勤(める)」				○					○		○			44.6	9.2	70	50	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「困難」				○					○		○			62.7	11.7	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「衛星」				○					○		○			52.2	15.0	70	50	
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語) 「効率」				○					○		○			54.5	16.7	70	50	
5	三	文節の区切りについて理解する					○				○		○			41.2	1.5	70	50	▼
5	四	文脈の中で語句や語彙を正しく使う					○				○		○			66.2	1.2	75	55	
5	五	行書の基礎的な書き方を理解する					○				○		○			63.7	1.7	75	55	
5	六1	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて内容を理解する					○				○		○			82.0	4.0	70	50	◎
5	六2	歴史的仮名遣いについて理解する					○				○		○			74.3	4.4	75	55	
5	六3	古典の様々な作品に親しむ					○				○		○			72.3	4.6	70	50	◎

(3) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成30年度[12月調査]^{*}で「おおむね達成」の基準を下回っていた「間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする」ことを問う設問が、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。
(小学5年生²二、中学1年生²二)
- ◇ 漢字のへんについて理解することや熟語の構成について理解することができている。
(小学5年生⁵四、中学1年生⁵四)
- ◇ 話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的や意図に応じて発言の構成を工夫しながら話したり、司会の役割を考えながら話し合ったりすることができている。
(中学1年生¹一二三)
- ◆ 1 理由を明確にして話す内容を構成したり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問したりすることに課題が見られる。
(小学5年生¹五、中学1年生¹五)
- ◆ 2 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書いたり、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。
(小学5年生²一、中学1年生²四)
- ◆ 3 叙述を基に登場人物の気持ちの変化を捉えたり、登場人物の相互関係や心情についての描写を捉えたりすることに課題が見られる。
(小学5年生⁴三、中学1年生³一)

* 平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 理由を明確にして話す内容を構成したり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問したりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 話の展開に沿った質問のモデルを教師が演示したり、発言の型を具体的に示したりしていますか。
 - ☐ 話し手の意図は何か、自分の考えとどこが同じでどこが違うかなどを考えながら聞くことができるように聞くポイントを示していますか。
 - ☐ 事実と感想、意見を色分けしたメモ用紙に書かせたり、構成表を友達と見せ合ったりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 2 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして自分の考えを書く力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 書く相手や目的、方法を明確にしたり、例文を示して具体的なゴールのイメージをもたせたりしてから学習に取り組ませていますか。
 - ☐ メモや構成表などを使って、事実と感想や意見を区別して書くことができるようにしていますか。
 - ☐ 理由や事例を挙げて書く際は、「なぜかという～」、「その理由は～」、「例えば～」などの表現を使ったり、文末の書き方を使い分けたりするとよいことを指導していますか。
 - ☐ 自分の書いた文章を読み返したり、互いに読み合って感想を伝え合ったりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 叙述を基に、登場人物の気持ちの変化や心情についての描写を捉える力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 場面ごとに読むだけでなく、物語全体に広がっている複数の叙述を関連付けて読むことができるように指導していますか。
 - ☐ 登場人物の心情を行動や会話、情景描写など本文に書かれていることを根拠にして読み取ることができるように指導していますか。
 - ☐ 物語の山場はどこか、山場で何がどのように変化したのか、変化のきっかけは何かなどを考えながら読み、登場人物の気持ちの変化について話し合う活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

■ 設問の概要と結果

	出題の趣旨（出題方法）	設問の内容	県正答率	十分達成
問 4 三	叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える。（記述式）	物語の前半と後半で変化した、少年に対する少女の気持ちを条件に合わせて書く。	24.5	65.0
			無解答率	おおむね達成
			29.1	45.0

【正答の条件】 次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

- ① 少年に対する少女の気持ちを書いていること。
- ② 「白さぎ」という言葉を使って書いていること。
- ③ 「～からだと思うよ。」に続くように書いていること。

■ 誤答例と解説

児童の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

誤答例 1	誤答例 2	誤答例 3
・仲間の白さぎがくるまで見守ってあげていた（からだと思うよ。） ・少年は白さぎがひとりぼっちだと思って見ていて、仲間が来て安心して帰った（からだと思うよ。） ・少女は、少年の白さぎへの思いに気づいた（からだと思うよ。） 少女の気持ちを書くのではなく少女の気持ちの変化のきっかけになった、少年の様子や行動を書いている。	・追いかけられたことがあるから苦手と思っていた（からだと思うよ。） ・仲間からもさけられてひとりぼっちでかわいそうだった（からだと思うよ。） ・今日の少年はおとなしかったから安心して白さぎをながめた（からだと思うよ。） 少女の気持ちの変化ではなく、物語前半から山場に至る前の少年に対する少女の気持ちを書いている。	・少女も、一人ぼっちだった白さぎに仲間が来て安心した（からだと思うよ。） ・白さぎを見ていて少女がやさしい気持ちになった（からだと思うよ。） ・白さぎが苦手だった（からだと思うよ。） 少年に対する少女の気持ちではなく、白さぎに対する少女の気持ちを書いている。

■ 改善・充実に向けて

叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えることができるようにするためには、授業中に、次のような活動を設定することが大切です。

ふしぎにはらはたなかつた
ばって
おさげのさきをキュッとひっ
き
？
あの白さぎ、ひとりぼっちじゃ
なくなつたから、もういいや
？
白さぎを見ている
少年のことが苦手
りゆうもなくおいまわされた

① 文章のどこに着目すれば登場人物の心情を読み取ることができるか考える。

登場人物の気持ちはどこで分かりますか。

登場人物の行動や会話、場面の様子などから分かると思います。

「りゆうもなくおいまわされたことがある」と書いてあるので、少女は少年のことが苦手だったと思います。

② 物語の前半と後半で登場人物の心情はどのように変化したのか、変化した場面や理由を考える。

少女は少年のことを物語の前半で「苦手」だと思っていたのに、後半でおさげをひっぱられても、はらがたなかつたのはなぜでしょう。

白さぎを見ている少年も、ひとりぼっちでさみしそうに見えたからだと思います。

「あの白さぎ、ひとりぼっちじゃなくなつたから、もういいや」という少年の言葉を聞いて、少年のことを本当は優しい人だと思ったから、苦手ではなくなってきたのだと思います。

白さぎがひとりぼっちじゃなくなるまで見ていた少年のことを本当は優しい人だと思ったから、はらがたなかつたのだと思います。

■ 設問の概要と結果

	出題の趣旨（出題方法）	設問の内容	県正答率	十分達成
問 2 四	目的や意図に応じて、自分の考えを書く。（記述式）	ユニバーサルデザインについて調べたことを書いたリーフレットの「まとめ」の一部を、条件に合わせて書く。	35.8	70.0
			無解答率	おおむね達成
			7.2	50.0

【正答の条件】 次の①、②、③の条件を全て満たしているものを正答とする。

① 書き出しの文に続けて二文で書き、一文目は、「まちの人の声」から一人の意見を取り上げて書いていること。

② 二文目は、取り上げた意見について、自分が考えたことを書いていること。

③ 途中で行を変えないで、90 字以上、110 字以内にまとめて書いていること。ただし、書き出しの文は、字数に含まない。なお、「、」「。」、かぎ（「 」）は字数に含む。

■ 誤答例と解説

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

誤答例 1	誤答例 2	誤答例 3
・以前と比べると、いろいろなところに足の不自由な人でも通りやすいスロープができたけど、全ての建物に取り入れられていないので困ることがあります。だから、困っている人がいます。 「まちの人の声」から取り上げた意見に対する自分の考えを書いていない。	・ユニバーサルデザインによって体の不自由な人やベビーカーで買い物をしている人を助けることができ、日本に来た外国人観光客の人達も助けられています。多くの人達がこの取り組みに感謝しています。 「まちの人の声」から一人の意見を取り上げたのではなく、三人の意見を取り上げて書いている。	・確かに年寄りや体の不自由な人向けに手すりやエレベーターがあり、とても工夫されていていいと思います。それに対して案内板には、外国語の文字も書いてあった方が外国から来た方も場所が簡単に分かります。 「まちの人の声」から一人の意見を取り上げたのではなく、自分の考えを二文で書いている。

■ 改善・充実に向けて

目的や意図に応じて、自分の考えを書くことができるようにするためには、授業中に、次のような活動を設定することが大切です。

【まちの人の声】

まちのあちこちには、トイレや非常口などを絵文字で表した案内板があります。そのため、外国から来た方が日本語を読めなくても、トイレなどの場所が分かります。

いろいろなところに足の不自由な人でも通りやすいスロープができてきました。ですが、すべての建物に取り入れられていないので、困ることがあります。

② 取り上げた事実と、自分の意見を分けて書く。

取り上げたまちの人の意見について、自分の考えを書きましょう。あなたはどんなことを書きますか。

すべての建物にスロープが取り入れられていないので、困っている人を書こうと思います。

「すべての建物にスロープが取り入れられていないので困っている人」というのは、まちの人の意見ですね。その意見に対する自分の考えを書きましょう。

まちの中にあるすべての建物にスロープをつけると、今よりもっと暮らしやすくなるというを書きたいです。

① リーフレットの「まとめ」を書くために、調べたことの中から一つの事実を取り上げて書く。

「まちの人の声」の中から、どの意見を取り上げますか。

これから外国から来る方が増えてくると思うので、案内板のことを取り上げます。

わたしのおばあちゃんが、階段が使いにくいと言っていたので、いろいろなところにスロープができてきたことを取り上げます。

(3) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校国語（中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 話合いの話題や方向性を捉えて的確に話したり、相手の発言を整理しながら聞いたりすることができている。 (1)一三)
- ◇ 平成30年度[12月調査]^{*}で「おおむね達成」を下回っていた「文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解すること」に改善の傾向が見られる。 (4)一)
- ◆ 1 書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることに課題が見られる。 (2)三)
- ◆ 2 会話描写に注意して読みながら内容を理解し、自分の考えをもつことに課題が見られる。 (3)二)
- ◆ 3 文章の表現の特徴について自分の考えをもつことに課題が見られる。 (4)二)

*平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐表記や語句の用法だけでなく、主語・述語や修飾・被修飾の関係に誤りがないか、事実と意見を書き分けているかなど、文を修正する際の視点を具体的に示し、推敲に必要な知識や技能を身に付けることができるように指導していますか。
 - ☐読み手に分かる語句や文の使い方になっているか、取り上げた事例は分かりやすいかなど、読み手の立場から見直すことができるように指導していますか。
 - ☐書いたものについて、生徒自身が読み直すだけでなく、推敲の手引きなどを基にして、互いに修正したり訂正したりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 2 会話描写に注意して読みながら内容を理解し、自分の考えをもつ力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐人物像を捉えたり、登場人物の心情や作者の思いを想像したりする場面で、自分の考えの根拠を描写と照らし合わせて明らかにするよう指導していますか。
 - ☐印象に残った場面や描写を取り上げ、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを具体的に説明するような活動を授業に位置付けていますか。
 - ☐話の展開において重要な意味をもつと考えた登場人物の言動を紹介して、その根拠を話し合うような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 文章の表現の特徴について自分の考えをもつ力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐文章の内容を正確に理解するだけでなく、どのような文章構成になっているか、どのような表現技法が用いられているかなど、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果についても考えることができるように指導していますか。
 - ☐文章の表現の特徴について考える際に、文章のどの表現を基にそう考えたのか、自分の考えの根拠となる表現を示すことができるように指導していますか。
 - ☐同じテーマで書かれた複数の文章を比較しながら読み、それぞれの文章の構成や展開、表現の特徴について、他の人と考えを交流するような活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

■ 設問の概要と結果

	出題の趣旨（出題方法）	設問の内容	県正答率	十分達成
問4 2	文章の表現の特徴について自分の考えをもつ。（選択式）	文章の表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果がどれに当たるかを選択する。	30.0	70.0
			無解答率	おおむね達成
			1.3	50.0
【正答】 ア 問いかけをして読み手と課題を共有することで、興味をもって読ませようとしている。				

■ 誤答例と解説

生徒の解答状況を分析した結果、次のような誤答傾向が見られました。

誤答例 1	誤答例 2	誤答例 3
「イ 最初と最後で同じ意見を繰り返すことで、読み手に筆者の考えを正確に伝えようとしている」と解答している。	「ウ 文末を『～である』と断定的な表現に統一することで、筆者の考えを強調しようとしている」と解答している。	「エ よく知られている具体例を文章中に多用することで、読み手の関心を高めようとしている」と解答している。
同じ意見を繰り返すことでどのような効果が生まれるかということは理解できていると思われるが、最初と最後の部分を比較して読み、同じ意見が述べられているかどうかを考慮することができていない。	断定的な表現をすることでどのような効果が生まれるかということは理解できていると思われるが、「断定的な表現に統一する」とはどういうことが理解できていない。	具体例を用いることでどのような効果が生まれるかということは理解できていると思われるが、文中にどのような具体例が挙げられているのかを吟味することができていない。

■ 改善・充実に向けて

文章の表現の特徴について自分の考えをもつことができるようにするためには、授業中に、次のような活動を設定することが大切です。

① 同じテーマで書かれた複数の文章を比較して読み、どのような表現の特徴があるか考える。

二つの文章には、それぞれどのような特徴がありますか。

文章 A

△△なのだ。
つまり、○○は
もう一つは、
この図を見てほしい。
○○は△△だ。
そう言える理由は
二つある。
一つは、



文章 B

○○といわれる
と、何が思い浮か
ぶだろうか。
○○の影響
○○の解決策
私たちの未来

文章 A には、図があります。

文章 A は、最初に結論を述べて、その理由を説明した後、最後にもう一度結論を述べています。

文章 B は、内容のまとめりごとに見出しが付けてあります。

② 表現の特徴について、その工夫と効果について話し合う。

文章を工夫することで、どのような効果があると思うか、話し合ってみましょう。

文章の最初と最後に結論を述べると、筆者の考えがより伝わってくる気がします。

見出しがついていると、どのような内容が書かれているのか推測できてよいと思います。